



こんにちは。2026年度がスタートしました。この原稿を書いている今日は4月13日で、桜の花も散ってしまいましたが、これからが若葉の青々とした色が眩しく、気候も一年で一番穏やかで過ごしやすい季節になります。毎年桜の花が咲くこの時期になると、志摩にはいわゆる「有名な」桜の名所がないなあとも思っています。もちろん横山園地といったいろんな品種の桜が咲くところや、場所によってはきれいな桜を見れるところはあるのですが、例えば、京都の哲学の道や奈良の吉野、名古屋の鶴舞公園といったような、どっと観光客が押し寄せる名所がないのです。桜だけではなく秋の紅葉に至っては、志摩というか伊勢志摩にはそのイメージは全くありません。「花」で人が呼べていないのです。

先日、2025年の志摩市観光統計の発表がありました。月別の入込客数を見てみると、4月は10.9万人で6月、2月、1月に次いで下から4番目、伊勢えびやふぐのシーズンも終わり「食」としても谷間の月に入るからなのかもしれません。

それでも志摩市には「志摩市観光農園」があります。春はネモフィラと芝桜、夏はひまわり、秋はコキアとコスモスといった色とりどりの花が見られる名所で、2025年は6万3千人の入園者があったそうです。この人数は10年前の7.5倍で、市内のどの観光施設よりも伸び率はダントツのナンバーワンなのです。近年はライトアップイベントなど誘客にも力を入れており、認知度が飛躍的に上がってきている結果だと思われます。協会でも市内周遊促進事業の一環として2024年の秋から運行している志摩周遊観光バス「しま〜る号」に観光農園をコースに組み入れており、車でないと行けなかった観光客の足としても好評です。

以前、定例記者会見の場で、ある記者の方が観光農園の情報にふれて「毎年ネモフィラを見に牧歌の里（岐阜県郡上市）まで行っている。こんな近くにこんな素晴らしいところがあるなんて知らなかった！もっと宣伝すべきでは」と言われていたことが非常に印象に残っています。志摩市の花の名所としてこれからもPRを強化して、ゆくゆくはいろんなツアーのバスが立ち寄り、駅からは臨時バスが運行される、そんな有名観光地になると志摩市はもっと盛り上がっていいなあと思っております。



4月9日の志摩市観光農園。ネモフィラがいっぱい

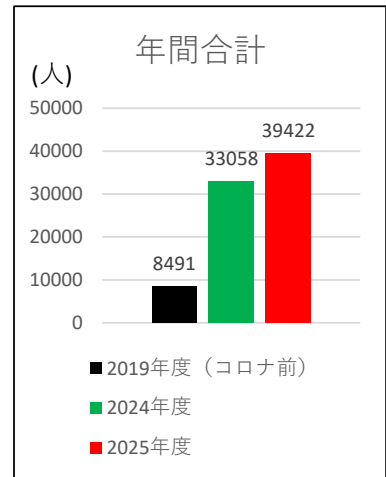
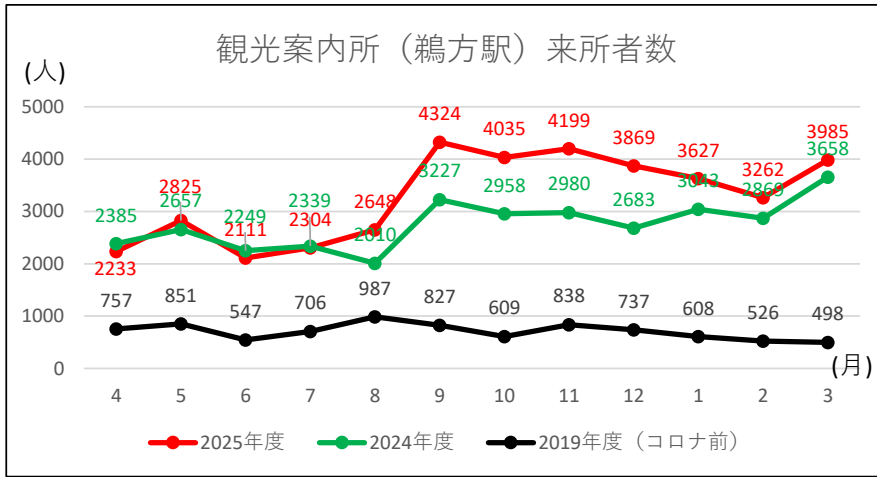


個人的な推しは五知駅。全国見渡してもこんなに桜が咲き乱れる駅はそうありません。

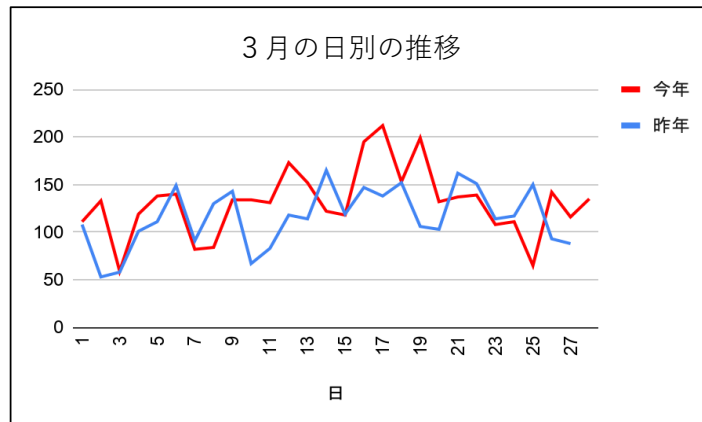
(公式Xで昼間の様子はさんざんあげましたので夜桜で)

【観光案内所（鵜方駅）来所者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計(人)
2025年度	2,233	2,825	2,111	2,304	2,648	4,324	4,035	4,199	3,869	3,627	3,262	3,985	39,422
2024年度	2,385	2,657	2,249	2,339	2,010	3,227	2,958	2,980	2,683	3,043	2,869	3,658	33,058
2019年度	757	851	547	706	987	827	609	838	737	608	526	498	8,491

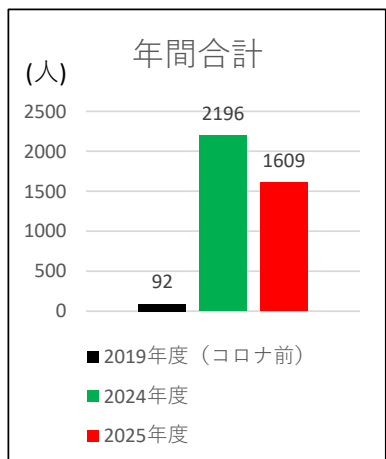
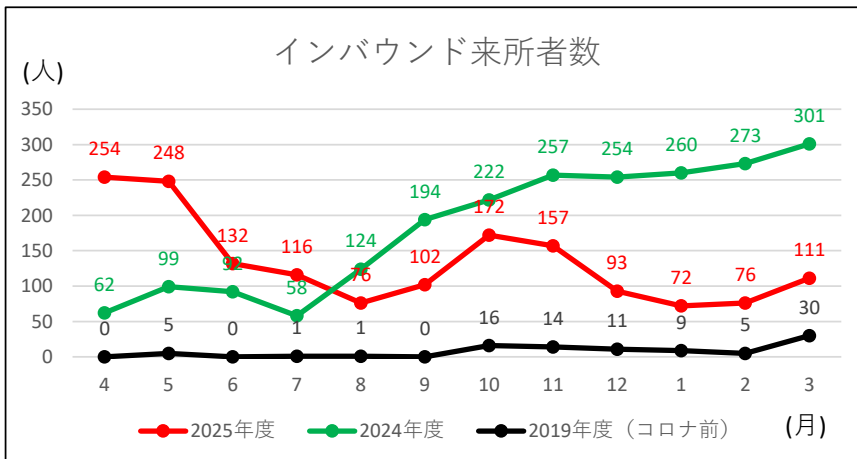


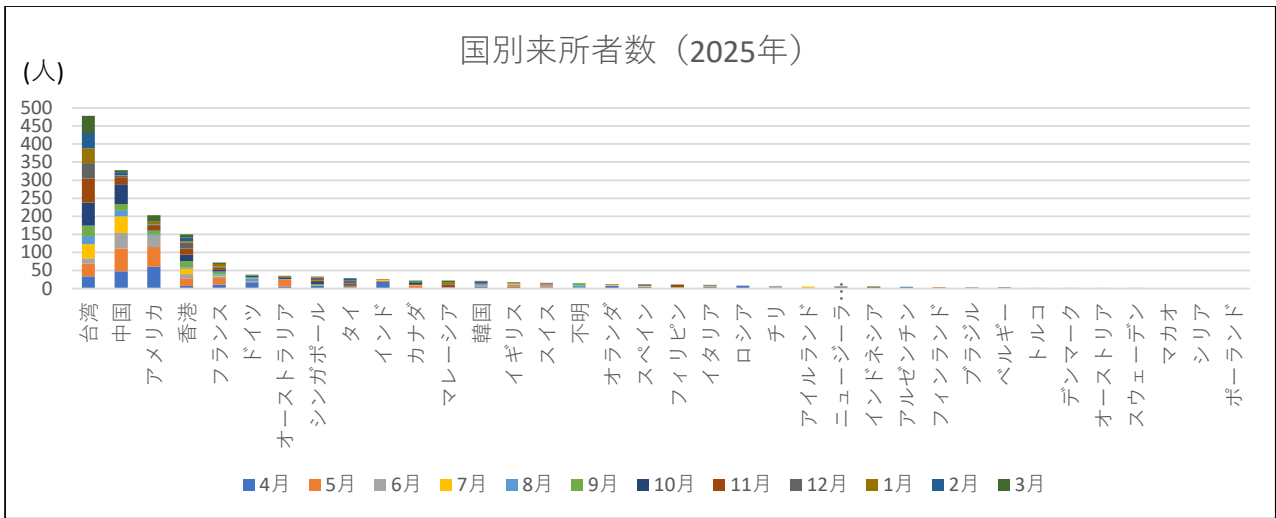
3月の来所者数は昨年度と同様に上昇に転じ4千人近くにまで達しました。今年度全体の傾向としては志摩市への入込客全体の動きと同様に、前半は低調で、後半は前年度を上回るペースで好調に推移した一年でした。こうして見るとやはり前半は関西万博に取られ、後半はそのリバウンドで好転していたことが案内所への来所者数ひとつとっても如実に現れていると感じております。年間合計では19%増で初の4万人に手が届きそうな結果となりました。(志摩市入込客数は3.6% (約14万人) 増でした。※R7.1~12月)



※うちインバウンドの来所者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計(人)
2025年度	254	248	132	116	76	102	172	157	93	72	76	111	1,609
2024年度	62	99	92	58	124	194	222	257	254	260	273	301	2,196
2019年度	0	5	0	1	1	0	16	14	11	9	5	30	92

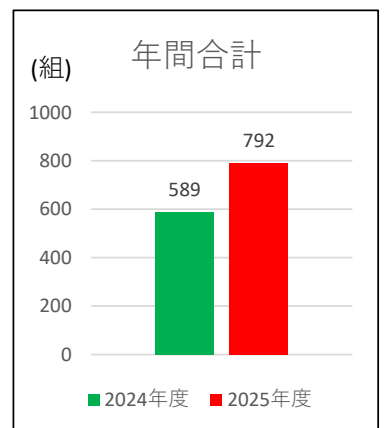
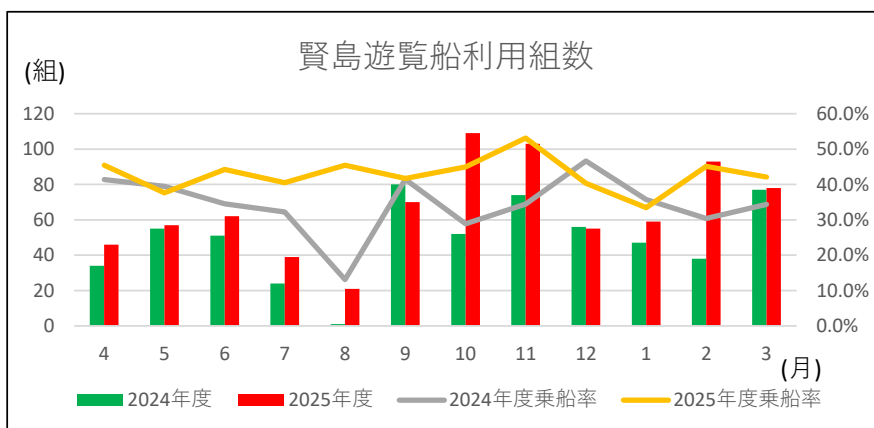
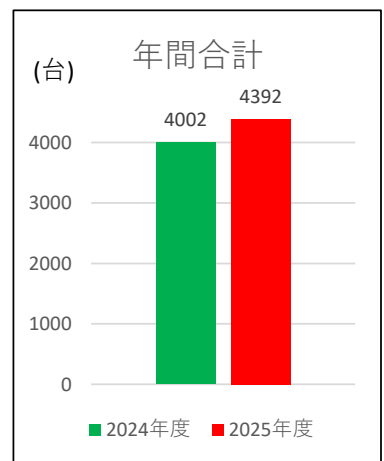
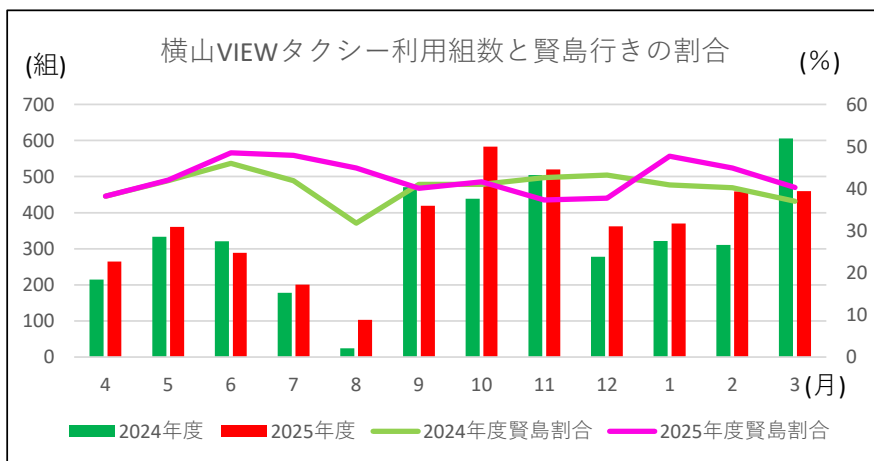


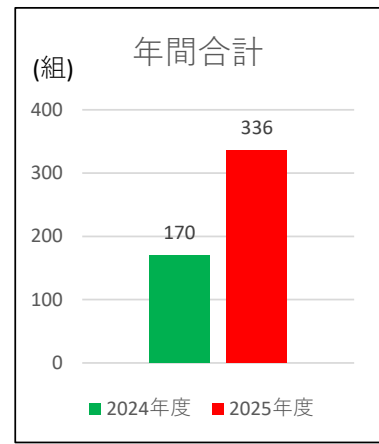
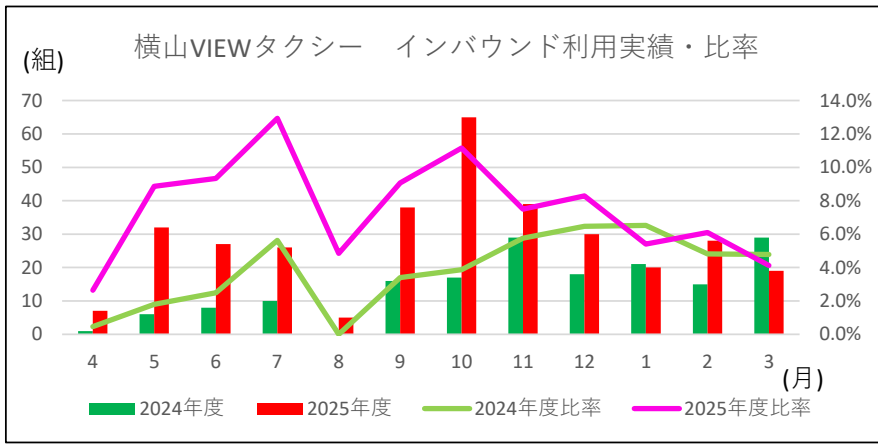


3月は少し回復し100人越えとはなりましたが昨年の3分の1程度で以前としてインバウンドの勢いは弱いままでした。今年度全体の傾向としては昨年度後半から続いていた勢いは5月までで、あの「7月5日問題」の影響が6月からの低調がそのまま引きつったような一年となり、年間合計は昨年度から約600人減という結果でした。国別では台湾、中国、アメリカ、香港のトップ4で全体の72%を占めており、志摩市への宿泊客数のトップ4と順位は違えど同じ国（台湾、アメリカ、香港、中国の順）で、それを反映した形となりました。台湾、香港は堅調でしたが、アメリカが前年比▲411人（▲67.0%）、中国が▲54人（▲14.2%）とこの2か国で465名減っており、全体を引き下げた大きな要因となりました。

【横山VIEWタクシー】

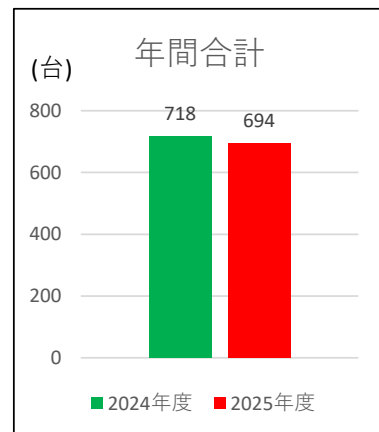
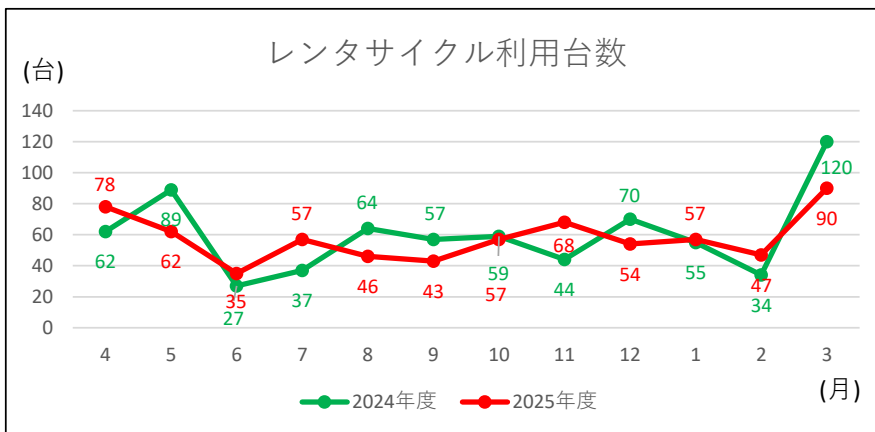
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計(台)
2025年度	265	361	289	201	103	419	583	520	362	370	459	460	4392
2024年度	215	333	321	178	24	471	439	504	278	322	311	606	4002





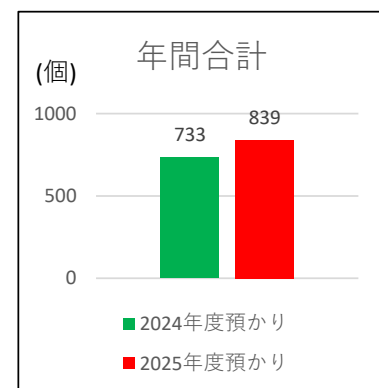
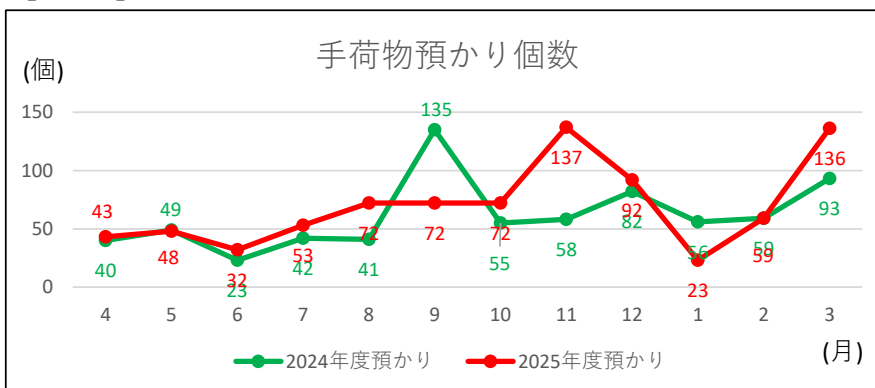
3月も好調が続き、3/19で運行が終了し2月よりも4日間運行日が少なかったにも関わらずほぼ同数となりました。最終日の3/19には過去最高の52組を記録するなど天候の良さもあり連日大賑わいでした。年間合計では昨年度の約1.1倍、390組の増で、特に後半は3月以外は前年越えとなりました（3月は昨年度は3月末まで土日祝含み延長運行したためマイナス）。復路に賢島へ行かれる比率は2.1%増の42.5%、その内の遊覧船利用率は5.9%増の42.3%となっており、周遊観光が昨年度以上に促進されていたという効果が出た形となりました。インバウンドの利用につきましては来所者数は減少したものの、タクシーの利用はほぼ倍増しており、年を追うごとにインバウンドにも周知が広がっていることを表していると言えます。

【レンタサイクル】



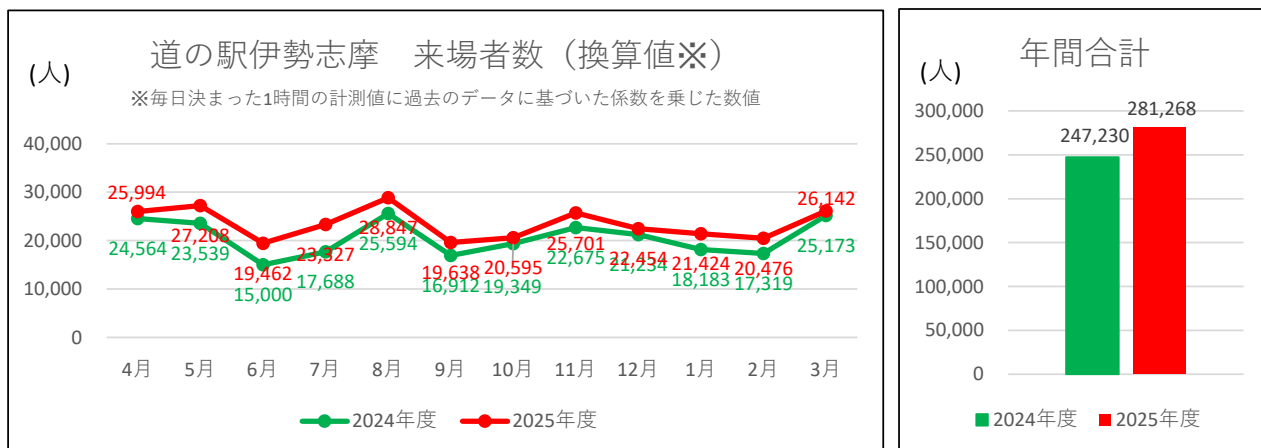
3月は昨年同様に春休みもあって盛り返しましたが、昨年度比で▲30台でした。年間合計でも昨年実績には届きませんでした（▲4.4%）。月ごとの実績を見ると、5月はすでに暑かったのでマイナス、6～7月は一極集中型の梅雨で晴の日も比較的多かったのでプラス、8～10月は酷暑のためにマイナス、そして2月は雨が少なかったのでプラスといったように、これまで以上に気候に大きく影響された年であったと捉えております。

【手荷物】



3月はVIEWタクシーと同様に手荷物も伸び、年間を通して最高月に僅か1個届かずの136個となりました。年間合計では前年比+106個（14.4%増）とさらに成長いたしました。特筆すべきは、ここには記載していませんが手荷物配送が大きく伸び、55個から102個に倍増したことです。昨年度から始めたこのサービスですが、やはり「手ぶら観光」はお客様が求められているサービスであり、周知が広がったことで自ずと増えたものと捉えております。今後も観光しやすくするサービスの提供にも力を入れ、ホスピタリティーのさらなる向上に努めていきたいと考えております。

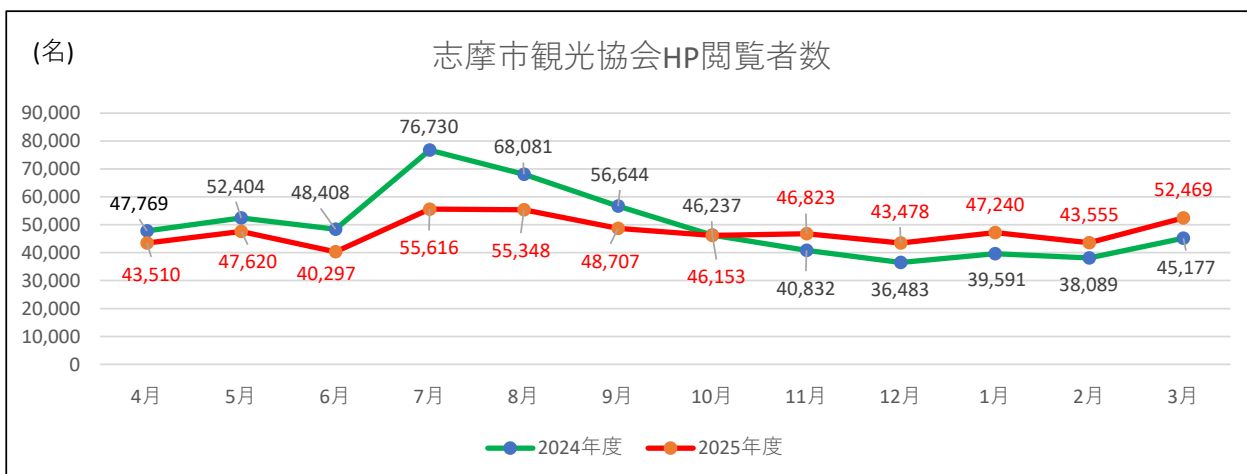
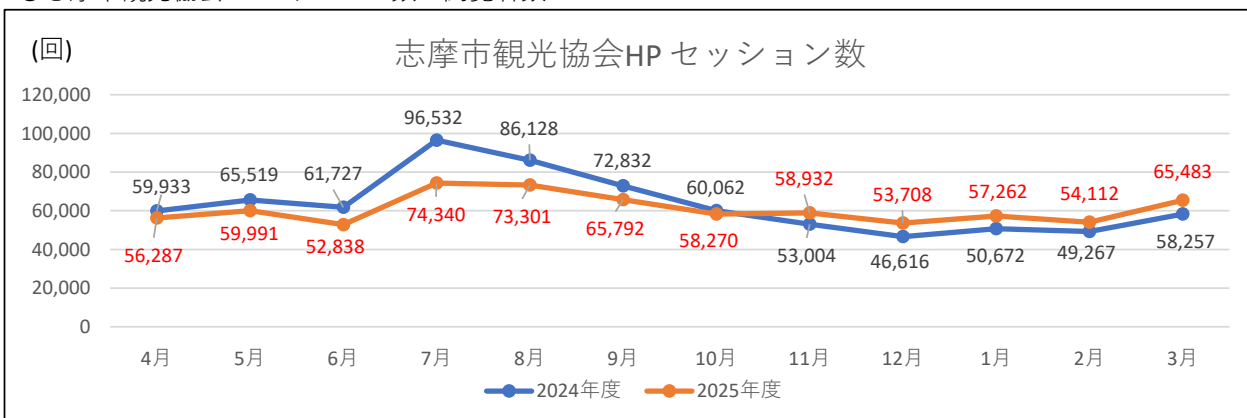
【道の駅伊勢志摩】



3月も前年実績をクリアし、これで年間通してすべての月で前年超えとなりました。年間合計では13.7%増となりましたが、これは志摩市への入込客数が増加したことがベースとしてはありますが、おうむ石トンネルの開通効果でバイパスへの車の往来数が増えた(?) ことを証明した形になったと言えます。

【ホームページ】

●志摩市観光協会HPセッション数・閲覧者数



●志摩市観光協会HP イベント紹介ページ表示回数ランキング（2026年3月）

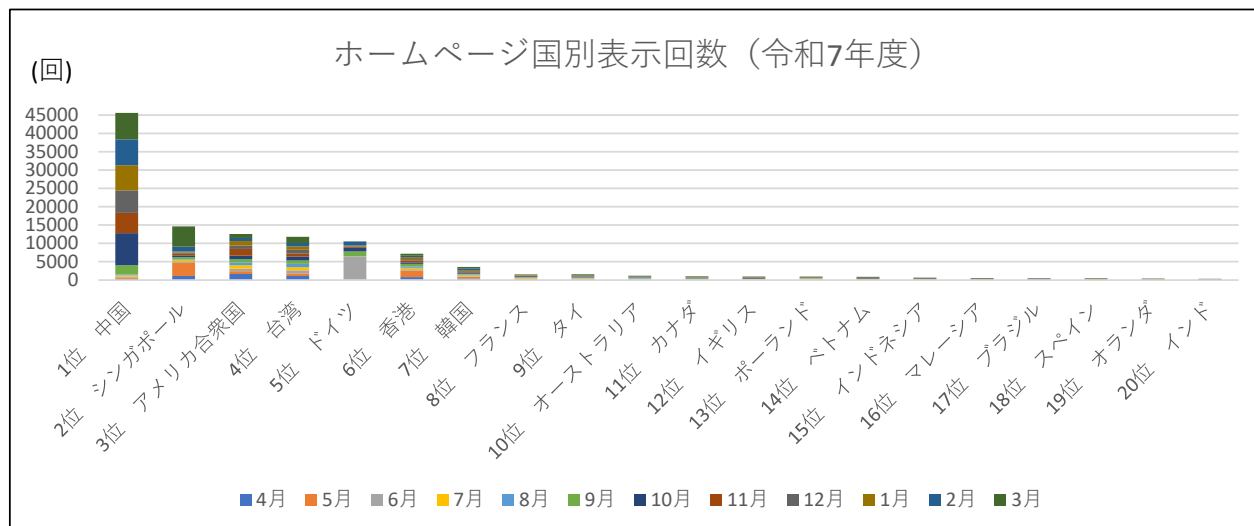
1	鶺方さくら祭り開催！ 【阿児アリーナ】	11	てんれい桜(河津桜)さくら祭り開催！ 【大慈寺】
2	第21回 横山さくらまつり 【創造の森・横山桜園】	12	第62回 伊勢えび祭 開催！
3	第63回 伊雑宮式年遷宮「お木曳」が 開催されます	13	AMIGO Marche 2026.3.22 【志摩地中海村】
4	いちご収穫体験 【JA伊勢・長沢ファーム】	14	和×洋のいちごのアフタヌーンティー2026 【都リゾート 志摩 ベイサイドテラス】
5	横山さくらまつり（第20回） 【創造の森・横山桜園】	15	志摩ロードパーティ ハーフマラソン2026
6	第2回 アート夢フェスタ'26 in 磯部 開催！	16	春のランチ営業とシール交換会開 催！【EL CANTO del SHIMA】
7	『ミジュマルルーム』が登場！ 【NEMU RESORT】	17	伊勢志摩・潮騒ロゲイニング in 志摩市
8	迫間区桜まつり開催！	18	4月26日（日）帆船「日本丸」体験乗 船会を開催します！
9	第5回 山原長寿 桜まつり開催！	19	しまのスイーツ・パンフェア開催！ 【阿児アリーナ】
10	乗用車コミコミパックキャンペー ン！ 【伊勢湾フェリー】	20	おすすめランチ情報（2026年3月- 2026年4月）【志摩地中海村】

2026年3月の志摩市観光協会ホームページにおけるPV数は65,483回、閲覧者数は52,469名となりました。前月と比較すると、セッション数は約21%増、閲覧者数は約20%増となり、春の観光シーズンに向けて志摩市の観光情報への関心が一層高まっている様子がうかがえます。

3月のイベント紹介ページでは「鶺方さくら祭り開催！【阿児アリーナ】」が最も多く閲覧されました。続いて、「第21回 横山さくらまつり【創造の森・横山桜園】」、「第63回 伊雑宮式年遷宮「お木曳」が開催されます」が上位にランクインしており、桜を中心とした季節イベントに加え、地域の伝統行事にも高い関心が寄せられました。これらの結果から、春の訪れを感じさせる自然やイベント、地域文化に関する情報発信が、多くの閲覧につながっていることが分かります。特に桜関連のコンテンツは、来訪時期の検討材料として注目度が高く、誘客につながる重要な要素となっています。

今後は、春の観光シーズン本番に向けて、桜に続く花や新緑、体験型コンテンツなどの情報発信を強化し、志摩市への来訪意欲をさらに高めてまいります。

●志摩市観光協会HPインバウンド表示回数



今月から新しく海外からのアクセスについてお知らせします。今回は令和7年度を年間ランキング形式で見えます。ご覧の通り中国がダントツのトップ（45,611回）で、続いてシンガポール、アメリカ、台湾、ドイツが1万回以上のアクセスという結果でした。中でも中国・台湾を中心としたアジア圏からのアクセスが多く、特に中国は年間を通じて高水準で推移しており、主要なターゲット市場であることが改めて確認されました。

また、香港・シンガポール・韓国などからの安定したアクセスに加え、ベトナムやインドネシア、マレーシアといった東南アジア諸国でも増加が見られ、じわじわと関心の広がりを感じられます。

一方で、アメリカやヨーロッパ各国からのアクセスも一定数を維持しており、特定の地域に限らず、幅広いエリアから関心が寄せられていることがうかがえます。

さらに中国については少し興味深い動きが見られました。2025年11月以降、渡航抑制の影響により訪日客数は減少しているものの、本サイトへのアクセスは同年9月頃から急増していました。

実際に訪れることが難しい状況の中で、「行けないからこそ気になる」という心理が働いているからなのか、日本への関心の高さを感じさせる結果となりました。

なお、シンガポールとドイツについては、一時的に大きく増加した時期があり上位に入っていますが、こちらは人による閲覧ではなく、検索エンジンなどのプログラム（いわゆるクローラー）が情報収集のために巡回した影響であることが確認されています。



### 教育旅行 I N 伊勢志摩

#### ～志摩市の修学旅行の現状～

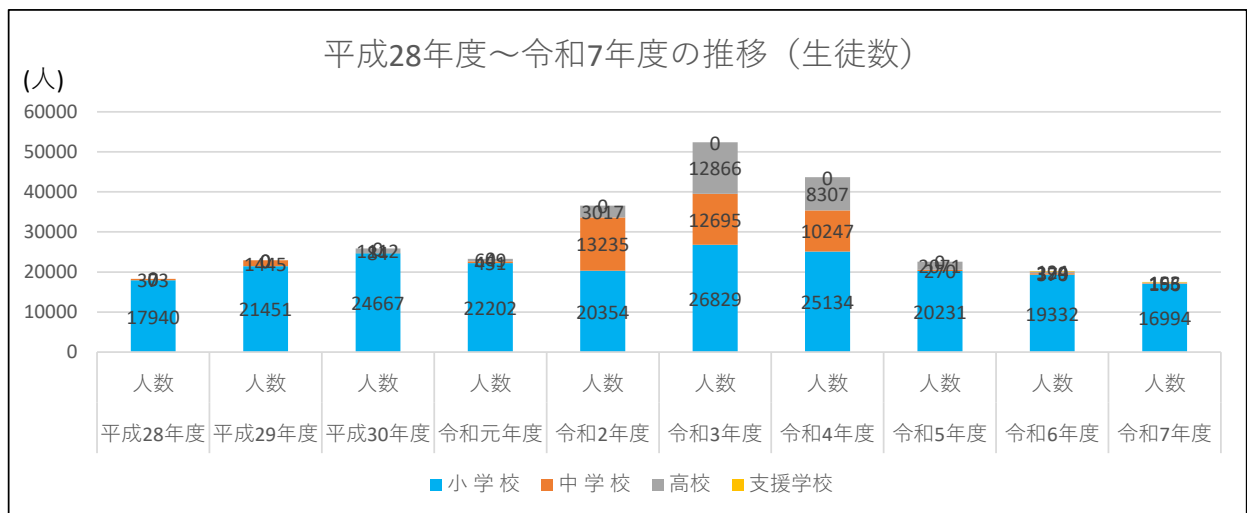
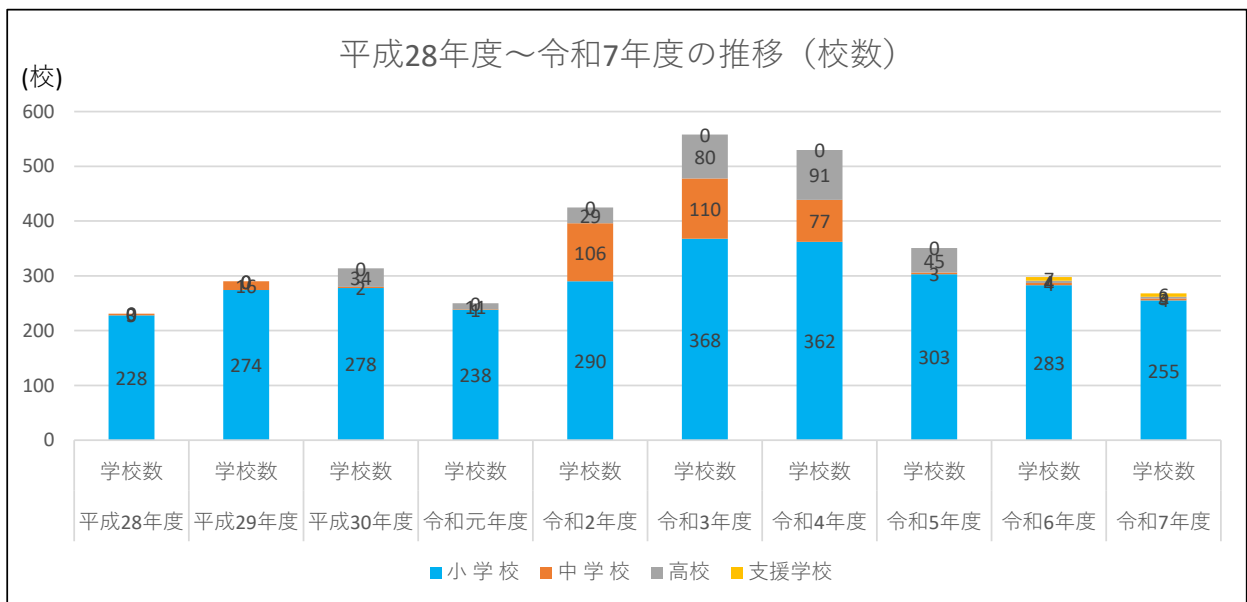
旅行スタイルが多様化する昨今においても日本独特の文化として修学旅行は今も全国的に実施され、学校生活における大きな行事の一つとなっています。伊勢志摩は主に関西からの小学校の修学旅行の行先として長い歴史があり、志摩市にも毎年多くの学校が訪れています。志摩市が先日発表した「令和7年志摩市観光統計」によりますと、志摩市への宿泊客数は前年と比較して6.4%増加して1,515,542人でしたが、その中で修学

旅行はどうだったのでしょうか？過去10年間の動向と最新の実績を見ながら志摩市の修学旅行の今をお話します。

### 1. 最近の志摩への修学旅行の実績

下のグラフは過去10年間の学校数および生徒数を表したものです。コロナ前まではだいたい230～280校の幅で推移していましたが、令和2年～4年の「コロナ禍」では約360校と急増します。そしてコロナが明けた令和5年以降は「元に戻って」しまっています。

ちなみに伊勢志摩全体と比較すると、コロナ前は全体の6～7割を志摩市が占めていましたが、コロナ禍では受けきれなかったのか5割程度となり、そのままコロナが終息しても5割台となっています。鳥羽市がコロナ前よりもコロナ後の方が校数は増えているようなので、鳥羽ではコロナで新たにきた学校がそのまま残っているのかもしれませんが。



令和2年度の後半から令和4年度が「コロナ特需」でした。

### 2. 令和7年度の実績

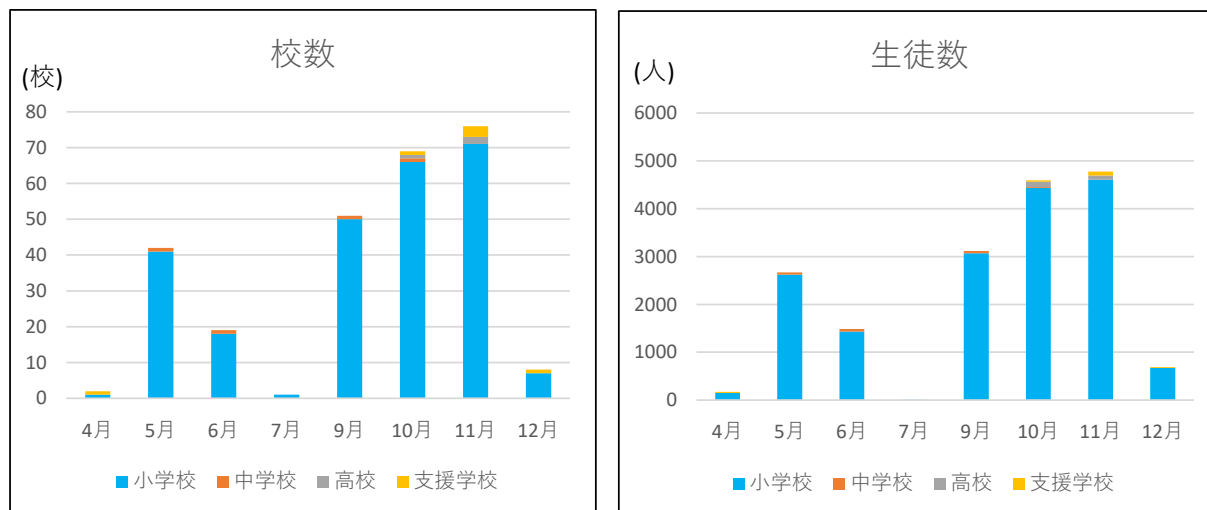
#### ①校数と生徒数

令和7年度は校数は268校（前年比▲30校：▲10.1%）、生徒数は17,508人（前年比▲2,717人：▲13.5%）となりました。要因としては業態変更により教育旅行の受入を中止した施設や、同様に運営会社の変更に伴って受入条件が変わり、修学旅行としての使い勝手が悪くなった（レクレーション会場が有料になった、など）ため、市外の他の宿泊施設（もしくは他方面）へ変わってしまったケースなど、今年度は教育旅行には

逆風の要件が重なってしまったことが大きいと思われます。市内の他の宿泊施設にはこれらの学校からはへの受入要請もあったようですが、修学旅行は翌日が休みとなる木曜日宿泊を希望されるケースが多く、そのため受入ができたのは一部の学校だけであったようです。

268校の内訳は小学校が255校で全体の95%を占めています。中学校は4校、高校は3校、支援学校は6校でした。

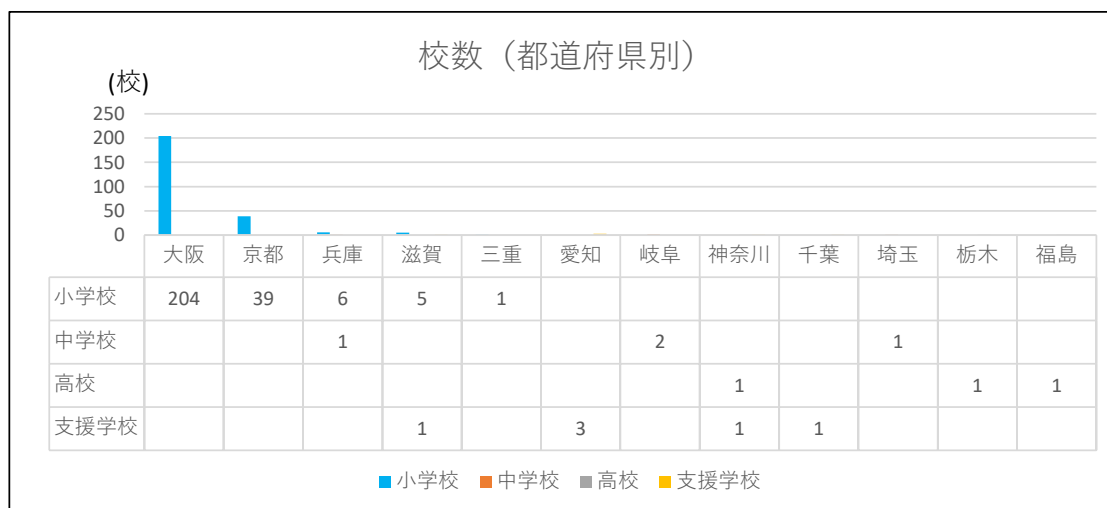
ちなみに少子化による生徒数減はこれからの見通しとして当然見込まれる大きな要素になりますが、1校当たりの生徒数は昨年度67.8人で今年度65.3人となっており、その傾向は今年度においては▲2.5人と大きくは表れていません。



修学旅行シーズンは春（5、6月）と秋（9、10、11月）です

### ②都道府県別

昔からの常連である大阪を筆頭に、京都、滋賀、兵庫で全体の95.6%を占めています。さらに詳しく見ていくと、大阪が前年比で▲24校、滋賀が▲3校、京都は+3校、兵庫が▲1校となっていました。上記の受入中止や条件変更の施設はともに大阪の常連校が多かったため、その影響がそのまま表れた形となりました。



ほとんどが大阪の小学校です

### ③来訪回数別

上述の通り常連エリアからの来訪がほとんどを占め、別途実施したアンケートによる回答でも新規校は全体の5%、逆に4回目以上の常連校が76%を占め、中には「開校以来ずっと」「30回目以上」といった“超常連校”も一定数見受けられました。伊勢志摩は関西（特に大阪）の小学校の修学旅行の「聖地」であり、今の親の世代も伊勢志摩が当たり前という長い歴史があるのです。

上記の結果をまとめると、志摩市の修学旅行を支えているのは「大阪を中心とした関西の常連の小学校」であると言えます。

### 3. これからの懸念材料

生徒数の減少以外でクローズアップされてきた懸念材料としては、一昨年8月の南海トラフ地震の臨時情報や昨年8月の津波警報の発出といったことがあります。幸いにもそのことで急遽方面変更をした学校はありませんでしたが、別途実施したアンケートや旅行会社からのヒアリングでは4割の学校が保護者から要望が出れば方面変更も検討せざるを得ないと答えています。学校は一定の間隔（毎年もあれば数年ごともあります）で方面を見直す検討をしており、そのタイミングで「次は敢えて志摩を選ばない」という選択肢が大きくなっていくことも考えられます。そのための対策としてできることは、学校を安心させられるより詳しい情報（施設の標高、津波の到達予想時分、避難場所までの経路と所要時間、経路上に浸水想定区域があるのかどうか、など）を各施設が準備し、学校や旅行会社にいつでも説明できるようにしておくことだと思っています。本音として学校も旅行会社も行先を変えたくはないのです。特に学校にとって行先を変えることは相当のエネルギーが必要であり、慣れない地に多くの子どもを預かって引率する先生方にとってはさらに大きなリスクを抱えることになるからです。ですので、保護者から行先を変える意見が出たとしても安心させられる材料が必要なのです。逆に一人でも保護者からそういった意見が出ると、学校としては検討せざるを得なくなるのです。



施設だけではなく避難場所までの経路上もチェックが必要

### 4. 今後の動向

物価高騰による航空運賃や宿泊料金などの値上げや、貸切バスの使用条件のさらなる厳格化（乗務員の退勤から出勤まで9時間以上のインターバル確保など）などにより、特に中学校や高校が近場に目を向ける傾向が表れ始めているようです。関東の中学校が京都を避けたり、高校が航空機を使うのをやめるなど、これまでの「常識」が覆っていく可能性が今までより大きくなってきています。このことは今まで来ていた学校や地域から来なくなる懸念が出てきますが、逆に見ると今まで来ていないところから来てくれるようになる可能性もあるのです。実際に大阪のある地域からの小学校は伊勢志摩でさえバス代の高騰で旅費が高くなったので、京都に変更した例も出てきています。ということは、逆にコロナ禍において大挙として押し寄せた三重県内の小学校が京都をやめて伊勢志摩に変更する可能性もあるのではないかと見ています。

### 5. 観光協会としてやるべきこと

協会としては継続して教育旅行の誘致にも力を入れて取り組んでいます。古くは平成17年に発足した伊勢志摩観光コンベンション機構の「伊勢志摩学生団体誘致委員会」に参画し、伊勢志摩エリアの一員として関西や関東、その他全国各地への誘致セールス活動や商談会などに積極的に参加してきておりますが、さらに協会でも志摩でできる体験プログラムを紹介した誘致パンフレットの制作や、独自セールスに加え、受入業務（いわゆるランドオペレーターの役割）も行っております。

この誌面でも報告しておりますが、3年前から友好姉妹都市である岐阜県郡上市の中学校が2年生の宿泊研修旅行で志摩を訪れており、今年度は新たに大阪の私学の高校も宿泊研修で来訪される予定となっています。これからも引き続き修学旅行以外の宿泊行事にもターゲットを広げ、新たな需要の掘り起こしにも取り組んでいきたいと考えています。



教育旅行誘致パンフレット

それ以上になによりも重要なのは常連校のつなぎ止めだと考えております。関西圏を中心とした定番旅行会社への継続的なセールスを通じての情報提供および動向のヒアリングは今後も最優先で取り組んでいきたいと考えております。

## 6. おわりに

現状、志摩の観光産業において修学旅行が占める割合は年々減ってきているように見えます。校数も減り、人数も減ってきている状況においては確かにそうかもしれません。それでも年間17,000人ものお客様が一生の思い出を作る舞台として志摩においでになっているのです。

経済効果として見た場合、修学旅行は宿泊料金は総じて安いので、直接的な売り上げは高単価な富裕層の旅行に軍配があがります。しかし周辺需要で見た場合、例えばリネン関係などは宿泊単価に関係なく人数であり、人数が多い方が売り上げは上がるのです。宿泊施設で総売り上げ（単価×人数）が同じ場合は人数が多い方が周辺需要への波及は大きいのです。ですが、最近の潮流としてインバウンドや高付加価値の旅行が脚光を浴びている中で、修学旅行の受入れをやめてそちらにシフトしている宿泊施設が全国的に増えてきています。もちろん経営を持続していく中では仕方のないことではあります。

でも、記憶に新しいことですが、志摩の宿泊施設はコロナ禍においては修学旅行に助けられた一面もあります。それは大阪など関西の常連の小学校のおかげなのです。全国的にコロナにより3密を避けるために行先が変更されていたり、旅行自体を中止にしていた中で、常連の小学校は行先を変えずに志摩に来てくれました。さらに近隣（県内や和歌山、東海エリアなど）含めた今までなかったところからの小中学校が東京や京都を避けて伊勢志摩に変更してきたことで宿泊施設がパンクしそうになったため、普段は修学旅行を受け入れていなかった宿泊施設にも受け入れていただきました。それらの宿泊施設にとっては、一般個人・団体のお客様が来なくなって経営の先行きが不安であった中での「救世主」であったはずですが、長い歴史の中で伊勢志摩が修学旅行を大切にしてきたからこそ今があると言っても過言ではありません。

修学旅行は他の旅行とは違った特別な旅行です。こどもたちの心の中に学校行事の思い出として修学旅行は必ずと言っていいほど残っています。みなさんもそうではありませんか？それだけ修学旅行という旅行は特別なのです。今後、修学旅行は少子化による学校や生徒数の減少で肩身の狭い存在になっていき、最終的にはなくなってしまいうのかもしれませんが、それでも修学旅行という行事が消えてなくなる限り、修学旅行の聖地である伊勢志摩ではこれからも大切に、この文化が続いて欲しいと切に願っております。



このシーンが一生の思い出の1ページになりますように

# トピックス

## ●今年度も横山VIEWタクシーを運行しています

鉄道で志摩に観光で来られる方に好評いただいております、今年度も引き続き4/6（月）から運行をスタートしております。

今年から料金を500円から1,000円（一台）に変更しましたが、3/16からタクシー運賃も約10%値上げされたことで、今までのお得感は幸か不幸かそのままです。また、横山ビジターセンターでの乗降も可能とし、展望台だけではなく、センターへの来訪も促すようにしました。

今年で5年目で認知度もますます上がり、志摩へ足を伸ばすきっかけとして定着しつつあります。復路賢島へ行かれ、遊覧船の乗船率も上がっておりますので、滞在時間上昇にも大きく貢献しています。



## ●志摩周遊観光バス「しま～る号」の今年度の運行計画を発表

車でないと行きにくい観光地をめぐり、観光ガイドの説明を聞きながら周遊できる周遊観光バス「しま～る号」を今年度はパワーアップ！これまでの横山展望台と志摩市観光農園をまわるコースに加え、2つのコースが新登場します。

これまでのアンケートで行きたいところナンバー1であった天の岩戸と、いよいよ遷宮行事も始まり盛り上がりを見せる伊雑宮をまわるコースで、今までのコースと新しいコースを通し乗車することで、一日観光を楽しむようにしています。

また、これまで2つの参観灯台を結ぶ交通機関がなかった大王崎と安乗埼をめぐることができるコースも別の期間で設定します。

年間の運行予定を一気に発表することで認知度を高め、旅の計画に入れていただきやすくすることで予約率の向上を目指しております。



## ●観光列車ついで「吟醸列車」を運行しました

3/21、22の両日、新しい企画列車として、車内で三重のプレミアムな日本酒を楽しむ「吟醸列車～志摩のよい旅Premium～」を運行しました（旅行主催は近鉄）。KANPAISESHIMA（べんのや酒店）プロデュースによる酒屋の目利きがチョイスした8種のお酒と、三重の食材をふんだんに使ったおつまみ弁当を肴に、ひとつひとつのお酒の説明や「志摩×日本酒」をテーマとした切り口での語りを聞きながらのプレミアムなひとときを過ごす列車の旅で、両日も満員御礼となりました。

飲み放題とは一線を画す、それぞれのお酒をじっくり味わっていただきたいとの思いで、もちろんお酒のラインナップもプレミアム！吟醸列車の名にふさわしい企画で大成功でした。

これをきっかけに協会では「日本酒」をフックとした誘客にも取り組んでいきたいと考えております。





これだけのお酒を一度に味わえるなんて  
お～ プレミアム！



## 新会員ご紹介



- (株) アイクテック 伊勢志摩パールヴィレッジ (宿泊施設)  
志摩市阿児町神明473-1
- AnSun (株) 伊勢志摩パールヴィレッジ (レジャー施設)  
志摩市阿児町神明473-1

英虞湾近くに位置する滞在型アウトドア施設。

キャンプやBBQ、サウナ、ヴィラ宿泊など、多彩な滞在スタイルに対応しています。



志摩市観光協会ニュースター Vol.16 2026年4月20日発行

編集・発行／一般社団法人志摩市観光協会

〒517-0501 三重県志摩市阿児町鶴方1670-2 近鉄鶴方駅改札階

TEL：0599-46-1112 FAX：0599-43-8321 Mail：info@kanko-shima.com

※記事内容を無断で転載することを禁じます